



# ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2019年(令和元年)8月25日号 No.1801

## 目次

■ 2019年上半期のロシア経済と鉱工業生産	1
■ 統計速報	5
2019年1～7月のロシアのブランド別乗用車販売台数/5	
■ キーパーソン	6
キルギスでアタムバエフ前大統領逮捕/6	
■ 『ロシアNIS調査月報』2019年9-10月号のご紹介	7
■ エトセトラ	8
東方経済フォーラム「日ロビジネスラウンドテーブル」のご案内/8	
■ トピックス	8
サンクトペテルブルグで電子ビザ導入/8	
ロシア観光庁、択捉、国後で試験的に観光ツアー/8	

## 2019年上半期のロシア経済と鉱工業生産

### はじめに

ロシア連邦国家統計局より2019年上半期のロシアの主要経済指標が発表されたので、本速報ではそれらを図表にまとめてお届けする。

統計局によれば、2019年第1四半期(1～3月期)のロシアのGDPは前年同期比0.5%増とされている。第2四半期(4～6月期)については速報推計値が得られるのみだが、前年同期比0.9%増という数字が発表されており、上半期(1～6月期)トータルでは前年同期比0.7%増とされている。

このように、2019年に入って1%を下回る低調な成長率が記録されている。確かに、ナショナルプロジェクトの始動などで、下半期に成長が加速すると見る専門家は多い。しかし、仮に下半期に盛り返したとしても、2019年通年で政府が示した成長見通し1.3%は達成困難との見方が広がっている。

図表1で主要経済指標を見ると、2019年の数字が比較的良好なのは、鉱工業生産である。GDP成長率が世界平均を下回っているロシアながら、鉱工業生産の伸び率は世界の主要国の上を行っている。しかし、それを牽引しているのは製造業というよりも鉱業であり(図表3)、ロシアの政策担当者が思い描くような産業構造の転換は進んでいない。

我々にとって気がかりなのは、ロシアの経済パフォーマンスの中でも、今年に入って貿易の動きが特に冴えないことであろう。エネルギー・資源価格が軟調の上、石油輸出はOPEC+の減産合意で抑制されており、期待していた非資源輸出も減少に転じている。輸入の方も、ロシア国民の所得低迷による消費の不振と、民間企業の設備投資意欲の低さにより、不振が色濃い。